

リビング・ヘリテージとしてのアジア近現代建築プロジェクト

「日本とASEAN地域における 20世紀遺産の現状と課題」合同意見交換会 開催のご案内

*International Conference and Colloquium-
Conservation Action Priorities for 20th Century Heritage:
Sharing Experience
of ASEAN Countries and Japan*

DOCOMOMO (=Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement) とは、ポルトガル・リスボンに本部をおく、モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織です。

DOCOMOMO JAPANは、1998年にDOCOMOMO本部からの支部設立の要請を受け、日本の近代建築の再評価のための活動を行うとともに、取り壊しが予定される近代建築の保存活動に取り組んでいます。

オリンピック・レガシーを掲げた2020年の東京オリンピックは、国立代々木屋内競技場、日本武道館など、1964（昭和39）年オリンピック大会時の施設を改修使用し、これらの施設を包含したヘリテージ・ゾーンを含むことが特徴となっています。一方、「ホテルオークラ東京」本館をはじめ、オリンピックを契機とした開発で多くの20世紀文化遺産である近現代建築がその姿を失っているのも現実です。

我が国の近現代建築に対しては、海外からも非常に高く評価されていますが、バブル経済期をはじめ、多くの重要な近現代建築が取り壊されています。これらを背景にアジア諸国のなかで、いち早く近現代建築のヘリテージを評価する国際学術組織ドコモモの日本支部が設立されました。その後、ドコモモの活動は韓国、中国、台湾、マカオ、タイなどアジア諸国へと拡がりつつあります。

今日、アセアン諸国の発展は目を見張るものがあります。発展、開発の影で、これら歴史的にも重要な近現代建築の多くが、価値の定まる前に、その姿を失っていくことはアセアン諸国においても日常的になってきました。この様な現実を踏まえて、ドコモモ・ジャパンは、国際交流基金、日本イコモス国内委員会との共催事業として、この分野における国際学術組織3団体であるICOMOS ISC20c, DOCOMOMO International, mAANの協力を得て、ASEAN地域9か国からの専門家、各国際組織の幹部を招聘し、国際会議「日本とASEAN地域における20世紀遺産の現状と課題」を企画しました。この国際会議においてはアセアン諸国の現状を確認すると共に、今後、共通の議論のプラットフォーム「mASEANa」を設定し、2020年までの当面の課題に関して公開で議論を行うこととします。併せて国際会議の前後に、会議の招聘者を中心として、神奈川県立近代美術館（坂倉準三設計、1951年）、国立代々木屋内競技場（丹下健三設計、1964年）などの東京近郊の重要な近現代建築の視察を行うことも予定しています。

概要・プログラム

一般参加募集要項

do.co.mo.mo_japan

The Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement

日本とASEAN地域における20世紀遺産の現状と課題 合同意見交換会 事業概要

◇組織

主催: DOCOMOMO JAPAN

共催: 独立行政法人国際交流基金、日本イコモス国内委員会

協力: ICOMOS ISC20c、DOCOMOMO International、mAAN

協賛: (株)ジェイアール東日本建築設計事務所、前田建設工業(株)、(株)三菱地所設計、(株)日本設計、大成建設(株)、田島ルーフィング(株)、竹中工務店、(株)大林組、(株)桜映画社(以上、アルファベット順)

◇事業日程

10月31日(土) 視察Ⅰ(8:30 - 17:30)

神奈川県立図書館・音楽堂(1954年 前川國男)、神奈川県立近代美術館本館・新館(1951年 坂倉準三)、中銀カプセルタワー(1972年 黒川紀章)、東京駅(辰野金吾)、自由学園明日館(1921年 フランク・ロイド・ライト) (*中銀カプセルタワーは人数制限があるため、見学できない場合があります。)

11月1日(日) 国際会議・合同意見交換会

マスコミ公開日

会場: 国立西洋美術館 地下2階 講堂 第1部9:45~12:15頃

第2部13:30~17:15頃

11月2日(月) 視察Ⅱ(13:00 - 18:30)

東京文化会館見学、国立代々木競技場(1964年 丹下健三)、東京カテドラル聖マリア大聖堂(1964年 丹下健三)、国立近現代建築資料館、国際文化会館(1955年 坂倉準三 + 前川國男 + 吉村順三)

プログラムへの一般参加募集要項

このたびのプログラム参加には、一般からの募集を募ります。

国際会議「日本とASEAN地域における20世紀遺産の現状と課題」【一般参加申し込みについて】

■視察Ⅰ・Ⅱ: 10月31日(土)、11月2日(月) (合わせた視察費用:10000円) 先着25名

* 1日のみ参加の可能な方も、2日セット10000円となります。

* 中銀カプセルタワーは人数制限があるため、見学できない場合があります。

■合同意見交換会:11月1日(日) 無料 先着35名

申し込み先:info.docomomojapan@gmail.com (ドコモモジャパン事務局メールと異なりますので、ご注意ください。)

(1)お名前、(2)ご所属、(3)ドコモモ会員/イコモス会員/一般、(4)当日連絡先、(5)メールアドレス

(6)視察Ⅰ・Ⅱのみ参加希望/合同意見交換会のみ参加希望/全て参加希望

以上をご記入の上、お申込み下さい。

ご参加いただけることになった方には、10月27日(火)までに詳細をご連絡いたします。それまでに連絡がなかった場合は、残念ではございますが、ご参加いただけませんのでご了承下さい。

ドコモモジャパン事務局 担当:亀井靖子

2

ドコモモジャパンホームページ <http://www.docomomojapan.com/>

11月1日 合同意見交換会プログラム

●第1部

9:30 Door Open

司会：山名善之（東京理科大学教授）

9:45-10:00 ウェルカムスピーチ
松隈洋（ドコモモジャパン代表・京都工芸繊維大学教授）
西村幸夫（日本イコモス国内委員会委員長）
鈴木勉（国際交流基金 文化事業部次長）

10:00-10:05 合同意見交換会の趣旨説明
山名善之

10:05-11:15

Session1 「アジア地域における近代建築の研究・保存再生の現状」
モデレーター：山名善之

- ①「ASEAN建築における近代への提案」
村松伸（mAAN）
- ②「20世紀遺産とコンサベーション」
シリダン・パーク（President, ICOMOS ISC 20C）
- ③「アフリカのmomo建築の経験からみるASEANへの提案」
アナ・トストエス（Chair, DOCOMOMO International）
- ④ディスカッション

11:15-11:30 コーヒーブレイク

11:30-12:15

Session2-1 「ASEAN諸国の近現代建築保存の現状と課題」
ASEAN9か国代表によるプレゼンテーション

- ①カンボジア
- ②インドネシア
- ③ラオス

●第2部

13:30-15:00

Session2-2 「ASEAN諸国の近現代建築保存の現状と課題」

- ④マレーシア
- ⑤ミャンマー
- ⑥フィリピン
- ⑦シンガポール
- ⑧タイ
- ⑨ベトナム

11月1日 詳細

組織概要

do.co.mo.mo_japan

The Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement

- 15:00-15:15 コーヒーブレイク
15:15-15:50 Inventory遺産目録
Moderator: Ana Tostoos /Rapporteur: Smirty Pant
15:50-16:25 Theory 理論
Moderator: Sheridan Burke /Rapporteur:谷川 竜一
16:25-17:00 Action plan行動計画
Moderator: Johannas Widodo /Rapporteur: Zara Ferreira

17:00-17:05 タイ・バンコク プレゼンテーション
17:05-17:15 まとめ
山名 善之
鈴木 勉 (国際交流基金 文化事業部次長)

終了

組織概要

◇DOCOMOMO International

ドコモモ (DOCOMOMO=Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement)

モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織。

ドコモモは、20世紀の建築における重要な潮流であったモダン・ムーブメントの歴史的・文化的重要性を認識し、その成果を記録するとともに、それにかかわる現存建物・環境の保存を訴えるために、オランダのフーベルト・ヤン・ヘンケット（当時アイントホーヘン工科大学教授、現デルフト工科大学教授、初代会長）の提唱により、1988年に設立された国際学術組織で、近代建築史研究者だけでなく、建築家、建築エンジニア、都市計画家、行政関係者などが参加している。

◇DOCOMOMO JAPAN

ドコモモの日本支部(DOCOMOMO Japan)は、1998年にDOCOMOMO本部からの支部設立の要請を受ける形で、日本建築学会の建築歴史・意匠委員会下のドコモモ対応ワーキンググループを母体に組織を整え、20件の選定作業を開始した。2000年のブラジリア総会でDOCOMOMOの支部として正式に承認された。日本支部は2000年に神奈川県立近代美術館（鎌倉館）を会場に、選定したDOCOMOMO20選についての展覧会やシンポジウムを開催し、ドコモモの主要任務を果たすべく、2003年9月には20選に80件を加えたDOCOMOMO100選を行い、その成果を2005年3月から5月にかけて汐留ミュージアムで展覧会として発表した。また、合わせて、建築物の見学会や全国各地での展覧会、研究集会ならびにセミナーやシンポジウムを開催している。2004年度からは支部となったDOCOMOMO KoreaやDOCOMOMO UKとの交流を行なうなど、積極的な活動を続けている。特に2008年と2010年にはそれぞれ京都（国立京都国際会館）と東京（東京都中央卸売市場築地市場、東京芸術大学）で技術に関する国際セミナーを開催し、2011年9月にはUIA東京大会において、DOCOMOMO Japan 150 未来への遺産展を開催し、国内外から多くの研究者や建築家が参加し、その活動は国際的になりつつある。公式HP：<http://www.docomomojapan.com/>